

青森県の誕生

1 幕末から戊辰戦争まで

◆維新前の青森県は、津軽家（弘前藩・黒石藩）と南部家（盛岡藩・八戸藩）の2つの大名家が治めていました（図1）。

◆慶応4年（明治元／1868）1月3日、会津藩を主力とする旧幕府軍と薩摩・長州藩中心の新政府軍が衝突し（鳥羽・伏見の戦い）、大規模な内戦に発展します。戊辰戦争の始まりです。会津藩・庄内藩には、明治新政府から討伐令が出されました。しかし、これを疑問とする仙台藩は東北地方の諸藩に呼びかけ、奥羽越列藩同盟を結成して討伐を止めるよう、新政府に要請します。しかし、この要請は聞き入れられず、列藩同盟は新政府と戦うことになりました。

◆東北地方を舞台とする戦争が始まると、列藩同盟の内部では、足並みの乱れが目立つようになります。津軽家では、列藩同盟

に参加した後も家中で論争が続きました。

しかし、古くからつながりのある公家の近衛家からの親書で新政府側に付くよう強く勧められ、列藩同盟を脱退しました。

◆盛岡の南部家は、官軍に降伏するまで列藩同盟側で戦いました。そのため、明治2年（1869）年に戦争が終わると、新政府から厳しい処罰を受けます。20万石の領地は大幅に減らされ、一時、白石（現宮城県）に移されます。この年の7月には盛岡への復帰を許されますが、多額の賠償金を支払うことになりました。

◆八戸藩は同じ南部家ですが、戊辰戦争ではあまり積極的な姿勢は見せていません。当時の藩主信順が薩摩島津家からのむこ養子だったこともあり、処罰は受けず、そのままの領地を守りました。

◆盛岡藩領のうち、下北郡と三戸郡・二戸郡の一部については、戊辰戦争で敗れ領地を取り上げられた会津松平家に、改めて与

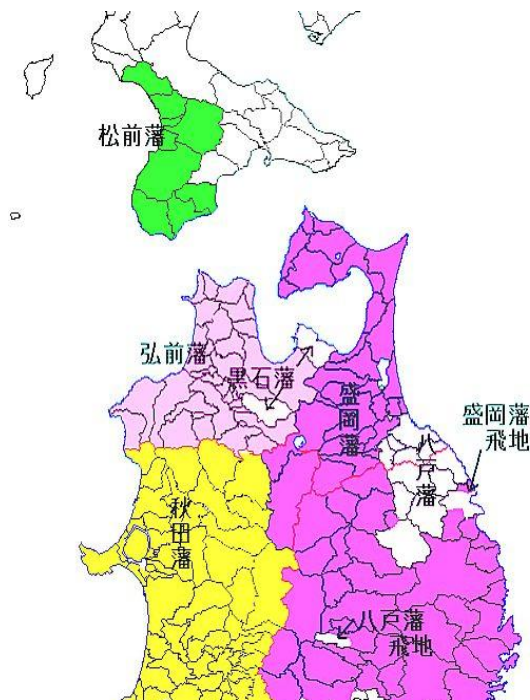


図1 明治維新前の青森県周辺

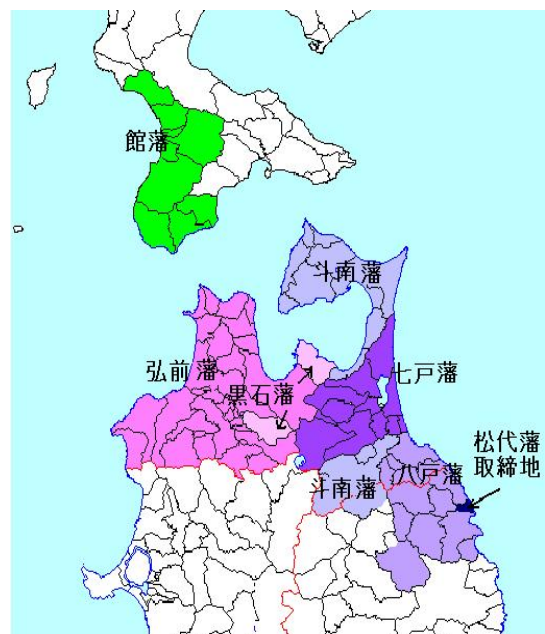


図2 明治2年(1869)年11月

えられました。これが斗南藩となみです。また、現在のしちのへ上北郡にあたる地域には七戸藩しちのへが新設され、江戸で暮らしていた南部家の一族が置かれることになりました（図2）。

2 廃藩置県と県域の確定

◆新政府は初め、藩主ちはんじを知藩事に任命し、藩をそのまま存続させる方針をとりました。しかし明治4年（1871）7月には、政治上の理由から廃藩置県を断行し、いつきに藩を廃止しました。藩主は東京に集められ、代わりに中央からけんれい県令（のちの県知事）や府知事が派遣されました。

◆青森県の諸藩は、そのまま県となりました。しかし、地域間の経済格差や、歴史的・文化的背景の違いを乗り越えるためには、より広い地域を一つにした方が有利だろうとの見通しから、斗南県のやすとう広沢安任と八戸県のひろき太田広城が中心となって、大合併を新政府に提案しました。これを受けて9月、黒石県たて・斗南県・七戸県・八戸県と、旧松前藩の館県たてを加えた5県が、弘前県と合併しました。

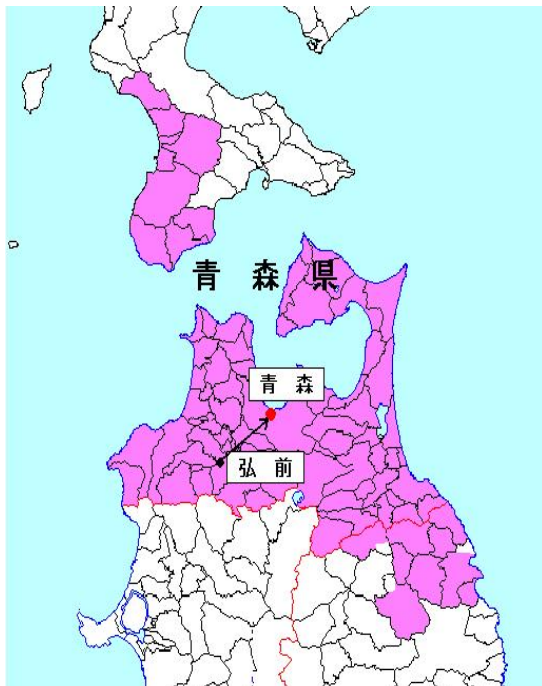


図3 明治4年(1871)9月23日

◆その後「県庁が弘前では南に偏り過ぎる」との意見が出され、県のほぼ中央に位置する青森に県庁が移されることになりました。こうして、県名も青森県となりました。

◆このころの青森県は、現在の北海道の南端と、現在の岩手県にのへ二戸郡・九戸郡くのへの一部も管轄していました（図3）。

◆その後、明治4年11月に九戸郡を岩手県に移し、代わりに二戸郡を青森県に移すこととなりました（図4）。しかし、二戸郡の住民は岩手県への所属を強く望んだため、明治9年（1876）年、この地域は切り離されました。こうして現在までつながる青森県の領域が確定しました。

◆なお、海峡をへだてた旧館県たての地域は、あまりにも連絡が不便であるため、不自然さを解消するため、明治5年（1872）に北海道開拓使に移管されました。

【参考文献】

『角川日本地名大辞典』北海道・青森県・岩手県
『青森県史資料編近現代1 近代成立期の青森県』
(2002 青森県)

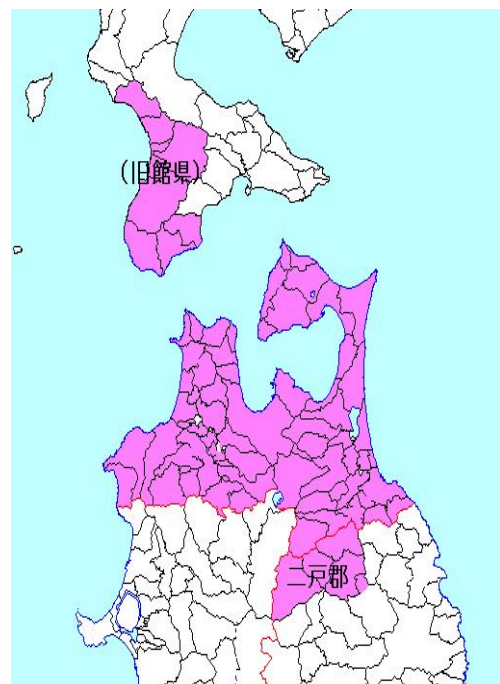


図4 明治4年(1871)11月